

## イワキンバイ *Potentilla dickinsii* (ユキノシタ科)



現地撮影

### 生態情報

#### Ⅰ 大きさ、葉の形

茎は細く、高さ10～30cmです。葉は3～5個の小葉しょうようからなり、裏面はおしろいを塗ったように白く、毛があります。

#### Ⅰ 生えている場所

北海道から九州の山地の岩上に生えています。

#### Ⅰ 花のようす

花の咲く時期は6～7月です。花は黄色で、花びらは5枚です。

### 参 考

「新潟県の絶滅のおそれのある野生生物」で絶滅危惧Ⅱ類ぜつめつ き ぐに指定されています。名前のイワキンバイは、キンバイの仲間である岩の上に生えることから名付けられました。

## ドクウツギ *Coriaria japonica* (ドクウツギ科)



撮影: 長井 眞隆

### 生態情報

#### Ⅰ 大きさ、葉の形

高さ 15m ほどの低木です。葉は単葉たんようで1本の小枝の左右に 30～36 個が対生たいせいしてつき、卵形たまごがたです。両面とも無毛です。

#### Ⅰ 生えている場所

北海道、本州(近畿以東)に分布します。河畔、原野、山地や丘陵地きゅうりょうちの斜面の、日当たりの良い岩礫地がんれきちなどのところに生えています。

#### Ⅰ 花のようす

花の咲く時期は4～5月です。種子しゅし、果実かじつ、茎くき、葉はに毒どくがあり、食べると危険です。

### 参 考

ドクウツギの有毒成分ゆうどくせいぶんは、アルカロイド系の毒どくで、別名ネズコロシといわれるように猛毒もうどくですが、実が美しく、甘みもあるので食用と間違える事故がたびたび起こっています。きれいな実だからといって、食べないように注意してください。

## ツタウルシ *Rhus ambigua* (ウルシ科)



撮影: 今井 建樹

### 生態情報

#### Ⅰ 大きさ 葉の形

ツタのようなツル植物で、若枝には褐色の毛がたくさんはえませんが、大きくなると毛はなくなります。葉は3枚の小葉です。

#### Ⅰ 生えている場所

北海道から九州の日本各地に分布します。ブナ林や暖温帯上部に生えています。

#### Ⅰ 花のようす

雌雄異株(ひとつの花におしべとめしべがなく、雄花をつけるものと雌花をつけるものが別の株)で、花の咲く時期は6～7月です。ツタのように気根と呼ばれる空気中に根を出して、木をはい上がります。

### 参 考

ウルシはかぶれる植物で有名ですが、ウルシ類の中でも最も強烈なのがツタウルシです。人により差はありますが、火傷をしたように皮膚がただれてしまうこともあります。敏感な人は近づいただけでかぶれるので、3枚の葉のツタのようなものには注意しましょう。

## トチノキ *Aesculus turbinata* (トチノキ科)



撮影: 長井 眞隆

### 生態情報

#### Ⅰ 大きさ 葉の形

高さ20～30m、太さ2mに達する落葉樹です。葉は対生し、てのひら状の複葉で長い柄があります。小葉は5～9個で、縁に細かい鋸歯(ギザギザ)があります。

#### Ⅰ 生えている場所

北海道(札幌市手稲および小樽市銭函以南)、本州、四国、九州の低山地の溪流沿いの肥えたところに生えます。

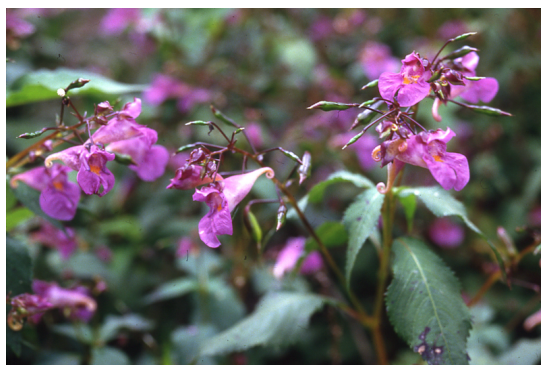
#### Ⅰ 花のようす

花の咲く時期は5～6月です。花は直立する枝に集まってつきます。花びらは4枚で、白色で基部に淡い紅色の模様をつけます。

### 参 考

溪流に生育する代表的な植物です。縄文時代の昔からクリやドングリとともに食糧として活躍し、山村の食生活に「とち餅」、「とち団子」という具合に利用されてきました。アクがかなり強いので、アク抜きを十分にして日陰で乾燥させて使います。

## ツリフネソウ *Impatiens textori* (ツリフネソウ科)



撮影: 今井 建樹

### 生態情報

#### Ⅰ 大きさ、葉の形

高さ50～80cmの一年草で、茎はやや赤みを帯び、節がふくらみます。葉は互生し、楕円形で、先は尖り、縁に歯があります。

#### Ⅰ 生えている場所

北海道～九州の山ろくの水辺に生えています。

#### Ⅰ 花のようす

花の咲く時期は8～10月です。葉の腋から茎を斜めにのばして、紅紫色の花をたくさんつけます。

### 参 考

やや湿ったところや水辺に広く生育している植物です。

名前のツリフネは、細い柄の先につり下がついて咲く花の姿を、釣舟(つるして使う「釣花生け」のなかで舟形をしたもの)にたとえたものです。

## ギンリョウソウ *Monotropastrum humile* (イチヤクソウ科)



撮影: 長井 眞隆

### 生態情報

#### Ⅰ 大きさ、葉の形

茎は高さ8～20cm。葉の退化したうろこのような小さな葉が多数互い違いにはえています。

#### Ⅰ 生えている場所

北海道、本州、四国、九州の山地に分布しています。山地のやや湿り気のある腐葉土の上に生えます。

#### Ⅰ 花のようす

冬は地下茎などで休眠し、翌年も花をつける多年草です。花の咲く時期は4～8月です。葉緑素を全く持たないので腐葉土から養分を吸収する腐生生活を営んでいます。

### 参 考

「国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑—中部(山岳編)—」の中部山岳国立公園で、稀少種に選定されています。

銀色をしていて、形が竜に似ていることから、「銀竜草」と名付けられました。薄暗い林の中で、白いキノコのように不気味に生えているので「ユウレイタケ(幽霊茸)」、「シビトソウ(死人草)」とも呼ばれます。

## ツルアリドオシ *Mitchella undulata* (アカネ科)



撮影: 長井 眞隆

### 生態情報

#### Ⅰ からだの特徴

つる性で、茎は地を這って枝分かれます。厚くて光沢のある卵形の葉が向き合って生えます。葉の縁には波状の鋸歯(ギザギザ)があります。

#### Ⅰ 生えている場所

日本中に広く分布する代表的な林床の花です。林内のやや湿った所に生え、本州では山地から亜高山の林内に生える高山性の種類です。

#### Ⅰ 花のようす

冬にも枯れない(常緑)の多年草です。初夏にかわいらしい白い花をつけます。花には柔らかい「うぶ毛」が生えています。

### 参 考

「国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑—中部(山岳編)—」の中部山岳国立公園で、稀少種に選定されています。

名前は、外見がアリドオシ(アカネ科)という植物に似て、つる性であることから名付けられました。

## クガイソウ *Veronicastrum japonicum* (ゴマノハグサ科)



現地撮影

### 生態情報

#### Ⅰ 大きさ、葉の形

茎は株立ちとなり、直立して高さ 0.8~1.3m と大きくなります。葉は4~8枚が輪のようにはえ、細い葉をしており、縁に多くの鋸歯(ギザギザ)があります。

#### Ⅰ 生えている場所

本州の日当たりの良い山地、草原、林の縁に生えます。

#### Ⅰ 花のようす

冬には、地下茎などで休眠して枯れず、翌年にも花を咲かせる多年草です。花の咲く時期は7~8月で、淡い紫色の花をたくさん咲かせます。

### 参 考

「国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑—中部(山岳編)—」の中部山岳国立公園で、タテハチヨウ科のコヒョウモンモドキの食草として選定されています。

名前は、葉が、茎に数層にはえていて、ちょうど九層ぐらいあるので、九階草(クガイソウ)と呼ばれています。